

平成 26 年度 大阪府立茨木工科高等学校（全日制の課程）第 1 回学校協議会議事録

日程 平成 26 年 6 月 13 日（金）

場所 茨木工科高校 会議室

出席者

委員長 1 名 委員 3 名 校長 教頭 事務部長 分掌長 3 名 系長 4 名 新規採用者 2 名

授業見学 14:20～15:10

校長室 実験棟（3F 2F 1F） 工場棟 本館（1F 2F 3F） 校長室

協議 15:20～16:30

1. 開会の挨拶（校長）

本日は 6 時間目に授業見学をしていただいた。その感想とともに、学校経営計画に対しご意見をいただきたい。平成 26 年度が始まり、2 ヶ月半が経過しようとしており、来週から第 2 回考査が始まる。本年度は 1 年生の問題行動が特に減少し、学校全体が落ち着いている。また、工学系大学進学専科をスタートさせた。現在この専科では大阪工業大学などの高等教育機関と連携した工業教育を進めている。将来、技術と技能を兼ね備えた技術者を養成していく。また、大学進学だけではなく就職について、本年度も約 8 割の生徒が学校紹介による就職を希望している。引き続きものづくりの技術、技能を身につけさせ地域社会に貢献できる人材の育成を行う。進学にも就職にも強い工業高校づくりを行っていく。

2. 委員長挨拶

授業見学を行い、実際の生徒を知る機会となり、よかったと感じている。年間行事予定や学校経営計画に関して忌憚のない意見をさせていただく。

3. 出席者紹介

協議会委員、学校事務局員がそれぞれ自己紹介。

4. 授業見学について意見・感想交換

（教頭）6 限目に授業見学を行ったが感想などはないか。

（委員長）見学で気になった点は、一部の生徒が騒がしいということである。その生徒が迷惑をかけ、学びたい生徒の邪魔している。どのような指導が効果的であるのか検討していただきたい。実習になると生徒の態度が違う。座学よりも実学教育のほうが身に付きやすい生徒が多いように感じた。

（委員）はじめて工業高校の見学をした。実習の姿や内容に驚いた。

（委員）少人数で授業を行っているクラスは生徒が落ち着いて授業を受けている。授業態度がそれほど悪いとは感じなかった。

（教頭）本年度の 1 年生は例年通りの指導をしてよくなったのではなく、色々な取り組みを行った。

(生徒指導主事)携帯電話について違反カードを発行している。昨年度も授業中の携帯電話についてはチェックをしていたが本年度はチェックする対象を厳しくしている。昨年は使用を確認した時にチェックしていたが、本年度は机の上に出している、音を鳴らすということでもチェック対象とした。

身だしなみについても違反カードの発行を始めた。ピアスは預かり指導と違反カードを発行する。身だしなみでも夏服のカッターシャツの下に着るアンダーシャツは白色でないと違反カードを発行し、帰宅指導またはシャツの預かり指導をしている。

補導案件は昨年の同時期に比べ半分となっている。

(委員長)違反カードの枚数によって指導内容が変化するのか。

(生徒指導主事)違反カードの枚数によって学年主任説諭、生徒指導主事説諭、校長訓告などがある。

(委員)携帯電話は持ち込み禁止ではないのか。

(生徒指導主事)持ち込み禁止にしてはいない。

(委員)携帯電話を持っている生徒は何割程度いるのか。

(校長)9割以上の生徒が持っている。

(教頭)授業見学の意見・感想交換を終わらせていただく。

5.平成26年度 前期での本校教育活動について協議

(1)平成26年度の学校経営方針について

(校長)学校経営計画について説明する。めざす学校像について、本年度より工学系大学進学専科を設置したことから高大連携型重点校としての目標を加えた。

中期的目標から本年度の取り組み4点を説明する。

1点目「確かな学力の育成」より、基礎的・基本的学力の定着を行うため「学び直し」を実践している。基礎学力を定着させることにより中退率の改善に努める。

2点目「安全安心で魅力ある学校づくり」より、規範意識を身につけさせ、個々の生徒への支援体制を充実させる。遅刻を減少させる取り組みである遅刻ゼロの日、学校生活見直し週間を行い、遅刻数を20%削減する。

3点目「自立・自己実現の支援」より、インターンシップ等への取り組みについて参加生徒数を増加させる。現在2年生を中心に、1年生にも募集をかけている段階である。

資格取得の取り組みでは第二種電気工事士の合格率70%を目標とした。本年度の筆記の合格率は94%であり目標を達成できそうである。

第1次就職試験合格率65%とする。教育産業の支援を取り入れ、生徒の適性を客観的に把握し就職のミスマッチを防止する。

4点目「地域連携・地域貢献の取組の推進」より、本年度もアルミ製朝礼台を製作し地域へ寄贈する。寄贈先は春日丘小学校、芦原小学校、桜塚高校となっている。

茨木市のイルミネーション事業にも参画する。

多くの計画を立てているが、基本となる部分は生徒に規範意識を身につけさせ、学校の佇まいを落ち着いたものとするところである。

(委員長) 意見や質問はないか。

(委員) 小型人工衛星の打ち上げに参画するとあるが何名くらいの生徒がかかわっているのか。

(校長) 部活動の生徒 10 数名と機械系 3 年生の課題研究でこのテーマに取り組んでいる生徒数名が中心である。

(委員長) 第二種電気工事士についてどのような対策をとり合格率を上げたのか。

(電気系長) 特に対策の変更はしていないが、昨年の 1 年生(現 2 年生)にキャリアガイダンスの授業で電気系に進級すると電気工事士の資格をとるために遅くまで残ったり、夏休みでも学校で勉強したりするという理解させた。

(委員長) 教育産業を取り入れ、模試などをさせたということだが、費用はどこから捻出したのか。

(校長) 生徒の学年経費に盛り込んでいる。

(委員長) 効果は出ているのか。

(校長) 担任が結果を把握している。企業は多くのデータ、信頼のおける実績を持っているため、学校は客観的な数値から生徒の進路実現のために指導を行うことができる。

(委員) 中学校連携についてはどのようになっているか。

(教頭) 中学校へ本校教員が講師として授業に行くことがある。昨年の同時期に比べ依頼は減っているが本年度も数校に講師派遣をしている。人気のあるテーマとして環境化学システム系の人工イクラがあり、このテーマを指定して中学校から依頼されることもある。

(2) 平成 26 年 3 月卒業生(7 期生)進路状況について

(教頭) 進路指導主事が求人開拓のため東京に出張しているため代わりに報告する。

四年制大学への進学が一昨年前の 12 人から 20 人に増加した。

昨年度、学校紹介の就職を希望する生徒が全員内定した時期は 1 月であった。

(3) 工学系大学進学専科について

(工学系長) 本年度 4 月からスタートしている工学系大学進学専科であるが、総合募集の専科に比べ 2, 3 年生での一般教科の授業数を増やしている。また、授業時間数も総合募集の専科よりも 1 時間多く、「大学連携」という学校設定科目をおこなっている。1 か月に 1 日 4 時間、土曜日に大学で授業を受けたり、講師を招き授業を行っている。夏休みにも英語、数学の補習授業を行う予定となっている。

大学連携の授業中に適性検査を行った。結果はやはり理系や技術に向いている生徒が大半を占めていた。今後、生徒の希望する進路を実現できるように支援を行っていく。

(委員) 生徒は土曜日に授業をしたり、夏休みの補充授業を行うことなどについて理解して入学していたのか。

(工学系長) 昨年度、多くの中学校を訪問し中学校教員に説明したり、中学生とその保護者対象に説明会を行ってきた。

(委員) 大学連携の授業評価をどのように行うのか。

(工学系長) 点数化しない。授業をしっかりと受けていれば合格とする。単位として認めている。

(委員長) 土曜授業に別の授業料は発生していないのか。

(工学系長) 今のところ別料金は掛かっていないが、大学へ行く交通費は生徒が負担している。また、総合募集の専科の生徒と違い、電子辞書を購入させているためその分、教材の費用は

多く掛かっている。

(委員長) 1年生の授業予定はできているが、2, 3年生でのこの授業内容は検討しているのか。

(工学系長) 1年生では大学の雰囲気学ぶことに重点を置いている。2年生では工学部の中にも多くの学科が存在しておりそれぞれの内容を講義していただく予定である。

(委員長) 大阪工業大学との連携が多く感じるが、他の大学との連携は検討していないのか。

(工学系長) 高大連携重点型の工科高校が3校あり、大阪工業大学と提携しているため大阪工業大学との連携が多い。今後は他の私立大学や国公立大学にも連携の依頼を行っていく。

(4) 平成26年度行事予定

(教務主任) 昨年度の学校協議会で話題となった、地域清掃は10月10日に行う予定となっている。

例年と異なる点は11月に本校を会場としてマイコンカーラリー近畿大会をおこなう。

他の行事について大幅な変更はない。

(5) 質疑および意見交換

(委員) 中退する生徒が多いが、どのような理由で辞めていくのか。また、中退者数を減少させるための対策は考えているのか。

(校長) 2点大きな理由がある。

1点目は学力不振。授業の準備をしない、授業中に寝る、私語を行うことによって考查点が低くなる。そのため、定期考査が終わると、結果の良くなかった生徒に対し補習を行っている。しかし、この働きかけに全く答えない生徒がいる。

2点目は遅刻や欠席が多く、学校生活に自分の生活のリズムを合わせることができない。遅刻指導で課題や早朝登校の指導をしているが達成することができない。

このような生徒に対してどうすれば改善できるのか暗中模索の状況である。

実習などは1科目不認定で留年となる規定がある。実習の単位を取得することが困難になると、他の科目でもやる気を失う生徒がいる。進級規定の見直しについても行っていく。

(委員長) 工学系大学進学専科の部活動の加入状況はどのくらいであるか。土曜授業で参加できないことはあるのか。

(校長) 総合募集の専科と変わりはない。昨年度の現時点での加入率は45%だったのに対し、本年度は55%となっている。土曜授業の日や夏休みの講習の時間は部活動に参加できない現状はある。

(委員長) 示された目標の多くが達成できることを願っている。

6. 閉会のあいさつ(校長)

多くの意見をいただいた。目標を達成できるよう努力していく。

7. 事務連絡(教頭)

平成26年度の学校協議会の予定	第2回	平成26年10月下旬
	第3回	平成27年3月上旬